

# 食中毒

## 原因

- ・食品などに含まれた微生物、化学物質、自然毒などを摂取することによって起きます。
- ・病因となる物質としては、主に微生物などや、化学物質、自然毒があります。
- ・微生物には細菌、ウイルス、原虫類、寄生虫があります。
- ・細菌には、サルモネラ、腸炎ビブリオ、下痢原性大腸菌(O157などの腸管出血性大腸菌も含まれる)、黄色ブドウ球菌、カンピロバクター、ボツリヌス菌、赤痢菌、コレラ菌、チフス菌、リステリアなどがあります。
- ・ウイルスには、ノロウイルス、ロタウイルスがあります
- ・原虫類には、クリプトスポリジウム、サイクロスポラ、ジアルジア、赤痢アメーバなどがあります。
- ・寄生虫には、アニサキス、旋尾線虫、顎口虫、旋毛虫などがあります。
- ・化学物質には食品添加物、有害性金属(カドミウム、鉛、スズ、有機水銀など)、そのほかに油脂の変質があります。
- ・自然毒には植物性の自然毒として、カビ毒、毒キノコ、植物毒(トリカブトアルカロイド、バレイショ毒、青酸配糖体など)、動物性の自然毒として、フグ毒、麻痺性貝毒、シガテラ魚毒があります。

## 家庭で注意点すること

- ・激しい下痢や嘔吐であっても水分をこまめに補給して脱水を防ぐことが重要です。
- ・病因物質で最も多い微生物などに対する食中毒予防の基本は
  - ①飲食物に微生物をつけない: 清潔な衛生管理をする
  - ②飲食物中の微生物を殺す: 飲食の前に熱処理をする
  - ③飲食物中の微生物を増やさない: 室温に置かないで、必ず冷蔵・冷凍保存をする

## 急患診療センターを受診するめやす

- ・血便がある場合は感染侵入型の病原体が腸壁の細胞を破壊して敗血症や腹膜炎を起こすこともあります。
- ・水様性の下痢が1日10回以上続く場合は脱水になり、特に小児や高齢者は危険です。
- ・海外旅行での感染は日本では稀な病原体に感染し、特別な治療が必要なこともあります。
- ・病院での治療は症状や重症度によって異なり、入院・治療が必要な場合もあります。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>